

実践記録（小2・生活科）

1 ねらい

町探検をして見付けたことや気付いたことを交流することで、自分の意見を広げることができるようにする。

2 手立て

- 付箋を使った意見交流

自分の意見は緑色の付箋に、友達の見解やデジタルカメラで記録した写真から見付けたことや気付いたことはピンク色の付箋に書かせ、意見交流をすることで、自分では気付けなかった新しい意見に気が付き、自分の意見を広げやすくする。

- デジタルカメラで記録した写真の使用

子どもたちの記録したメモだけでは十分に探検の振り返りができないこともあるため、探検に行ったときに撮影した写真を見て探検を振り返りやすくする。

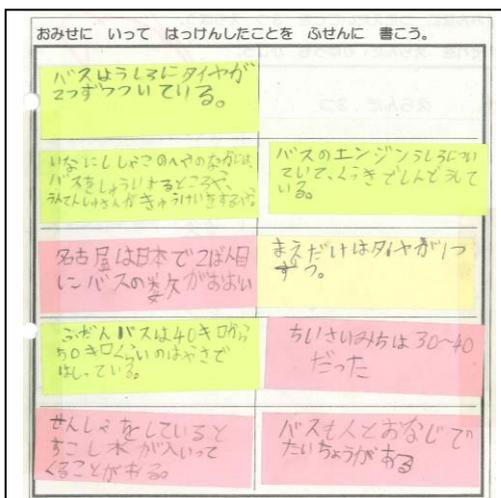
3 実践の様子

本実践では、最初に、学区探検に行った時のことを思い出させ、そこでたくさんのことを学んだことを振り返らせ、それを発表会としてみんなに発表することを確認した。そこで、めあて「はっぴょうかいで はっぴょうすることを 考えよう。」を伝えた。

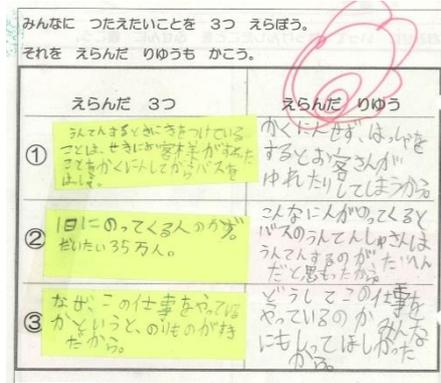
まず、子どもたちには、学区探検（お店の見学）に行ったときに、インタビューをしてメモをしたワークシート①を見て、分かったことを振り返らせた。そして、一つの付箋（緑色）に、見付けたことや気付いたことを一つだけ書かせてワークシート②に貼らせた。子どもたちの様子を見てみると、インタビューをしたときの答えを書いていることが多かった。「見たことでもよい」ことを伝えると、お店にあった物を思い出して書いていた。自分の考えをもつことを大事にしたかったため、多めに時間をとった。中にはとても意欲的に書き、15枚以上もの付箋を書いている子どももいた。

次に、同じお店に行ったメンバー（2～3人）と意見の交流を行った。友達の見付けたことや気付いたことで、「いいな。」や、「そうだった。」というものがあれば、ピンクの付箋を使ってワークシート②【資料1】に付け足して貼らせた。また、学区探検（お店の見学）に行ったときに撮った写真を配布して、探検に行った時のことをゆっくり思い出させた。そこでも、ピンクの付箋を使って付け足しをさせた。子どもたちの様子を見ると、友達の見解でも、自分にはないものがあれば書こうとしている子どもが多かった。また、中には、付箋を増やすことに意欲的になり、お店の写真をよく見て、お店にあった物を、細かくたくさん記述している子どももいた。

次に、記述した付箋のうち、発表会で伝えたいことを三つ選ばせた。また、どうしてそれを選んだのかの理由も記述させた。【資料2】子どもたちの中には、自分の意見も友達の見解も関係なく、もっとも伝えたいことを選び出している子



【資料1】ピンクの付箋で自分とは違う意見に注目させたワークシート②



【資料2】発表会で伝えたいことを三つにしぼったワークシート②の裏面

どもがいた。しかし、付箋が多かったため迷ってしまう子どもや、ピンク色の付箋が多くあるが、やはり自分の意見を選び出している子どもがいた。

最後に、選んだことを使って発表会をすること、次回から発表会の準備をすることを伝えた。

4 成果と課題

- デジタルカメラで記録した写真を使用することで、子どもたちは、インタビューをしてメモしたワークシートに記述しきれなかったことや、お店にあった物を思い出して、付箋に記述することができた。
- 自分の見付けたことや気付いたことが、なかなか書けない子どもが、友達の見付けたものや書いたものを見ることで、自分の付箋を増やし、自分の意見を広げることができた。
- とてもたくさんの付箋を書き出した子どもが、選び出すときに迷ってしまっていた。たくさんの付箋の中から選ばせるために、絞らせるための視点を考えておくべきであった。
- 友達の見付けたことや気付いたことを聞いて、自分の意見を広げ、ピンク色の付箋を増やしたにもかかわらず、自分の書いた緑の付箋ばかりを選んでしまい、増やしたピンク色の付箋紙を活用できない子もいた。三つに絞らせるときに、適切に付箋を活用できるような視点を与えておくことが必要であった。